

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/12/01

クリスマス・年末を意識した動きに

通貨ペア	基調		ページ数
<u>ドル/円</u>	➡	ポジション整理に注意	2 - 3
		予想レンジ: 75.50 ~ 80.30 円	
<u>カナダ/円</u>	➡	年末にかけて荒い値動きも	4 - 5
		予想レンジ: 73.00 ~ 79.50 円	

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



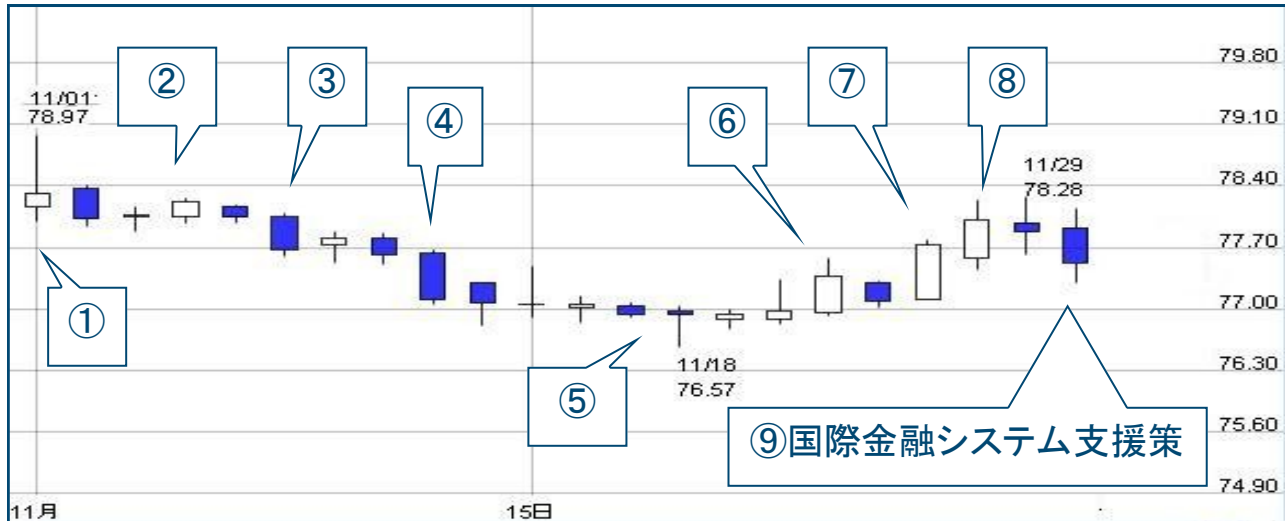
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD / JPY

ドル/円 11月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	78.16円	78.97円	76.57円	77.53円



①	1日、日本の仲値公示に向けた円売り・ドル買い介入への期待感が広がる中、9時過ぎにまとまった規模の円売り・ドル買いが入ると、介入観測を絡めながら急上昇し78.97円の高値をつけた。しかし、実際に介入が入った形跡はなかったことから、すぐに上げ幅を縮小した。
②	4日、米10月雇用統計で非農業部門雇用者数が8.0万人増と予想(9.5万人増)より弱い結果となり、直後にドル/円は小幅に売られたが、前月分が上方修正(10.3万人増→15.3万人増)された上、当月の失業率が9.0%と前月(9.1%)から改善したことからドル/円は反発。ただ、値幅は限られた。
③	8日、国際機関や中東勢によると見られるユーロ買いや、米国株の堅調さを受けて対ユーロでドル安が進むと、ドル/円でもドル売りが優勢となり、ストップスを巻き込みつつ77.59円まで下落した。
④	11日、政府・日銀の覆面介入ラインと見られていた77.50円を明確に割り込むと一段安。さらに、欧州連合(EU)のファンロンパイ大統領が「ユーロ圏首脳会議の開催を計画中」と発言したことや、伊上院で財政安定法案が可決されたことを受け、対ユーロでドル売りが強まると、ドル/円は77.05円まで下げた。
⑤	18日、14日に付けた11月安値76.80円を割り込むと下げが加速。欧州中銀(ECB)が国際通貨基金(IMF)に貸出を行う案についての協議が間もなく始まる、と報じられたことを受けて、ユーロ/ドルでユーロ高・ドル安が進行するとドル/円でもドル売りが強まり、76.57円の安値をつけた。
⑥	23日、ドイツの国債入札が札割れとなったことを背景にユーロ/ドルでドル高が進行すると、ドル/円でもドル買いが強まった。さらに、格付け会社フィッチが「危機が拡大すれば仏のAAA格付けにリスクが生じるとの見解を示すと、このドル買いの流れに拍車がかかった。
⑦	25日、仲値公示に向けたドル買いにより朝から上昇。欧米市場では伊国債利回りの上昇や格付け会社S&Pがベルギーを格下げし、見通しをネガティブにしたこと、フィッチが伊中堅銀行8行を格下げしたことなどを受けてユーロ安・ドル高が進んだ影響を受け、ドル/円は77.79円まで上昇した。
⑧	28日、欧州市場終盤に欧州株が一段高になりユーロ/円が上昇すると、ドル/円も連れて上昇。さらにロンドン16時(日本時間25時)のフィッシングに向けた円売り・ドル買いなどもあり、78.24円まで上昇した。
⑨	30日、日銀の10月28日から11月28日の介入額が9兆916億円だったことが明らかになると、10月31日以降も覆面介入が入っていたとの見方が広がり、円安が進行。しかし、その後に日・米・ユーロ圏・スイス・英国・カナダの中銀が国際金融システム支援策として現行のドルスワップ協定におけるドル資金供給の際の金利引き下げに合意したことが発表されると、ドルが急落した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

USD / JPY

今月のポイント

11月のドル/円相場は76.57円～78.97円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約0.8%の下落(ドル安・円高)となった。10月に続き、為替相場の関心が欧州の債務問題に集中する中、ユーロを中心にドルと円が同じ方向に動く展開になったことにより、11月のドル/円相場も主体性に乏しく、連日小幅な値動きにとどまった。米国の追加緩和期待が残る状態だった月前半こそドル売りの方がやや優勢で、10月31日の政府・日銀による円売り・ドル買い介入時の上げ幅を少しずつ縮めていくような流れとなったが、半ばに入ると77.00円を挟んでもみ合いとなった。ただ、月末にかけてはポジション整理の動きの中でドル買いが優勢となったが、78円台では上値の重さもみせた。

欧州債務問題に対する不安が落ち着いた状態が続けば、ドル/円相場は12月も方向感に乏しい状態が続くだろう。米連邦公開市場委員会(FOMC)メンバーが金融緩和について一段と前向きな発言をすればドルの売り要因となるが、別に欧州関連の材料があればそちらを手掛かりにユーロ/円やユーロ/ドルが動き、ドル/円はその綱引きの中である程度限られた値幅での取引となりそうだ。

ただ、ポジション整理の動きには要注意だ。クリスマスや年末を前に、時がたつに連れて市場参加者が減少することが予想される。そうした中で、相場には徐々に手控えムードが広がり、方向感自体は出にくくなってくると考えられるが、市場参加者が少ない分、比較的大きなポジション整理の動きがあっただけで、相場が急激かつ大幅な値動きになる可能性がある。その点にも留意した上で投資戦略を練りたいところだ。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 75.50～80.30円)

今月の注目材料

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

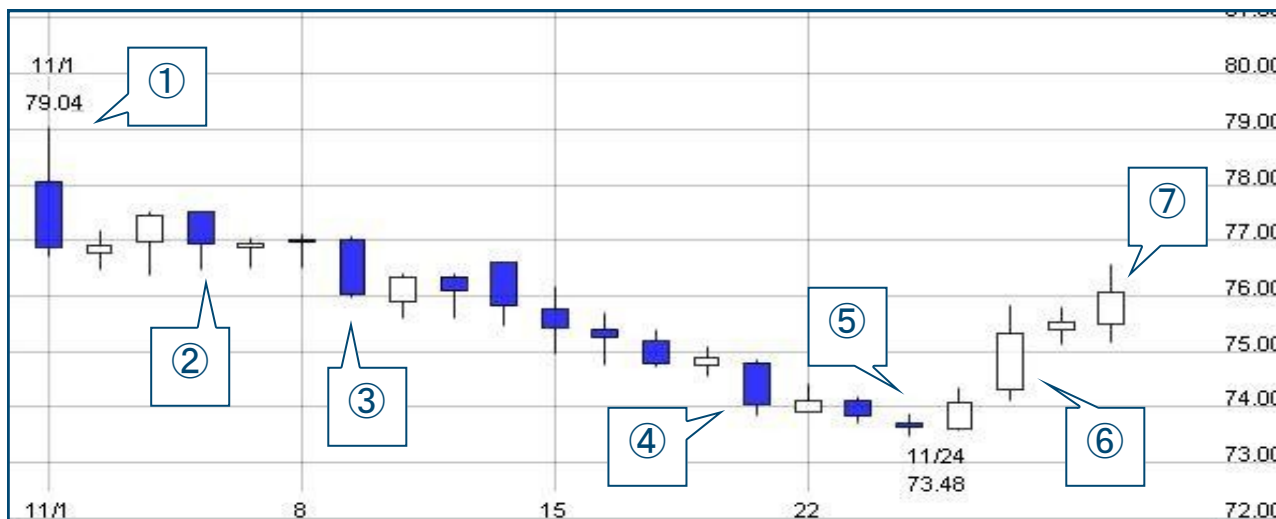
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
12/1(木)	11月米ISM製造業景況指数		11月米鉱工業生産
12/2(金)	11月米雇用統計		12月米フィラデルフィア連銀景況指数
12/5(月)	11月米ISM非製造業景況指数	12/16(金)	11月米消費者物価指数
12/8(木)	ユーロ圏首脳会議	12/20(火)	11月米住宅着工件数
12/9(金)	第3四半期日GDP・二次速報	12/21(水)	日銀金融政策決定会合(20日～)
	10月米貿易収支		11月米中古住宅販売件数
	12月ミンガン大消費者信頼感指数・速報値	12/22(木)	第3四半期米GDP・確報値
	EU首脳会議	12/23(金)	11月米耐久財受注
12/13(火)	11月米小売売上高		11月米新築住宅販売件数
	米FOMC政策金利発表	12/27(火)	日銀金融政策決定会合議事要旨(11月分)
12/15(木)	日銀短観		12月米消費者信頼感指数
	11月米生産者物価指数	12/28(水)	11月日消費者物価指数
	12月米ニューヨーク連銀製造業景気指数	12/29(木)	12月米シカゴ購買部協会景気指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

カナダ/円 11月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	78.07円	79.04円	73.48円	76.07円



- ① 1日、本邦政府・日銀による円売り介入への警戒感が残る中、ドル/円が突然急騰するとカナダ/円もつれ高となり、一時79.04円の高値まで急上昇した。しかし、前日にギリシャのパパンドレウ首相が国際支援受け入れの是非を問う国民投票を実施すると発言した事を受けて、欧州株が寄り付きから大幅に下落。リスク回避の動きが強まるとカナダ/円は76.71円まで値を下げた。
- ② 4日、加10月雇用統計が失業率7.3%(前回、市場予想ともに7.1%)、雇用ネット変化5.40万人減(前回6.09万人増、市場予想1.50万人増)と大幅に弱い結果となった事を嫌気してカナダ/円は76.61円まで50銭以上急落した。その後に発表された加9月住宅建設許可が前月比-4.9%と、予想(+2.6%)外の減少となると、76.46円まで下落した。
- ③ 9日、欧州清算機関のLCHクリアネットがイタリア国債取引に係る証拠金比率の引き上げを発表した事をきっかけに同国債利回りが財政運営上の「危険水域」とされる7%を超えて上昇し、欧米株価が大幅下落。NYダウ平均株価が引けにかけて400ドル超の下落となるとカナダ/円は75.96円まで下落した。
- ④ 21日、格付け会社ムーディーズが仏国債利回りの上昇や先行きの景気見通しの弱さが仏格付けにマイナスの影響を与える可能性があるとして指摘した事や米財政削減をめぐる超党派委員会の協議が23日の期限までに合意出来ない見通しが強まった事を背景に欧米株が大幅に下落。原油先物価格も大幅安となると資源国通貨売りが強まり、カナダ/円は73.85円まで値を下げた。
- ⑤ 24日、独仏伊首脳会談後の会見で、独メルケル首相が「ユーロ圏共同債は必要ないとの立場に変更はない」と述べた事や仏サルコジ大統領が「欧州中銀(ECB)に債務危機の悪化を食い止めるために更なる行動をとるように要請しないとの見解で合意」と述べた事を受けて欧州債務危機解決への期待が後退すると欧州株が急速に下げに転じ、カナダ/円は73.48円の安値を付けた。
- ⑥ 28日、前週末に伊紙が「債務危機が悪化した場合に備えIMFが中心となって最大6000億ユーロの支援を準備」と報じた事を受けてリスク回避ムードが後退。その後、欧州情勢好転への期待感や米国年末商戦の好スタートを背景にNYダウが大幅高となると、カナダ/円は75.82円まで上昇した。月末応答日のロンドンフィクシングに向けてドル/円が78円台に上昇した事もカナダ/円の上昇につながった。
- ⑦ 30日、中国が預金準備率を0.50%引き下げると発表した事に加え、日米欧の中銀が、欧州金融機関のドル調達支援のために、スワップ協定に基づくドル供給オペの期限を延長し金利を0.50%引き下げると発表した事を受けて欧米株が大幅上昇となり、原油価格も101ドル台に急騰すると、カナダ/円は76.07円まで上昇した。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

今月のポイント

10月のカナダ/円相場は73.48円～79.04円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約2.7%の下落(カナダドル安・円高)となった。債務危機が深刻化する欧州情勢を背景に主要国株価の下落が目立った上中旬は、カナダ/円にも下落圧力がかかったが、株価がやや持ち直した下旬には、ドル/円が約3週間ぶりに78円台に上昇した事や原油価格が100ドル台に上昇した事などを背景にカナダ/円も反発。30日には日米欧の各中銀が協調してドル資金供給オペの金利を引き下げた事を受けて76円台まで値を戻した。もともとカナダ/円は月間高安の2分の1戻し(76.26円)も達成できておらず、本格的な反発局面入りか否かの判断は12月に持ち越される事になった。12月のカナダ/円相場は、引き続き欧州情勢を睨んで、日々伝わってくる要人発言や観測報道に一喜一憂する神経質な展開となりそうだ。欧州情勢については、8日の欧州中銀(ECB)理事会や8日から9日にかけて行われるユーロ圏・EU首脳会議が注目される。ECBが利下げにとどまらず、より強力な金融緩和に踏み込めば、問題国の国債利回りも低下に向かい、株価が反発を強める可能性はあるだろう。ユーロ圏首脳会議では、欧州金融安定基金(EFSF)の機能強化を決めた11月末の財務相会合以上の成果は期待しにくい。債務危機克服に向けた結束を示す事が出来れば、安心材料となる。その他、6日にはカナダ中銀(BOC)の政策金利発表が予定されている。政策金利自体は据え置きが見込まれるが、今後の金融政策の方向性を示唆する文言があれば材料視されそうだ。12月は後半に入ると海外勢の休暇シーズンとなるため、例年どおりなら金融市場全体が動意に乏しくなると見られるが、今年は欧州債務問題という懸念材料があるだけに、荒い値動きとなる可能性も否定できないだろう。(神田)

(予想レンジ:73.00～79.50円)

今月の注目材料

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
12/1(木)	11月米ISM製造業景況指数	12/13(火)	11月米小売売上高
12/2(金)	11月加雇用統計	12/13(火)	米FOMC政策金利発表
	11月米雇用統計	12/14(水)	11月加景気先行指数
12/5(月)	11月米ISM非製造業景況指数	12/15(木)	日銀短観
12/6(火)	加中銀政策金利発表		11月米鋳工業生産
	11月加Ivey購買部協会指数	12/16(金)	11月米消費者物価指数
12/8(木)	欧州中銀金融政策発表	12/20(火)	11月加消費者物価指数
	11月加住宅着工件数		11月米住宅着工件数
	ユーロ圏首脳会議	12/21(水)	10月加小売売上高
12/9(金)	11月中国消費者物価指数	12/23(金)	10月加GDP
	EU首脳会議		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。